

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

## 非イオン性造影剤

日本薬局方 イオヘキソール注射液

## イオヘキソール300注10mL「HK」（脊髄用）

IOHEXOL 300 INJ. 10mL “HK”

剤形	注射剤
製剤の規制区分	処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること
規格・含量	1mL 中イオヘキソール 647.1mg（ヨードとして 300mg）含有
一般名	和名：イオヘキソール 洋名：Iohexol
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造販売承認年月日：2010年7月15日 薬価基準収載年月日：2010年11月19日 発売年月日：2010年11月19日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：光製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	光製薬株式会社 医薬情報部 TEL.03-3874-9351 FAX.03-3871-2419 受付時間：8時30分～17時30分 （土、日、祝日、その他当社の休業日を除く） 医療関係者向けホームページ <a href="https://www.hikari-pharm.co.jp/hikari/medical">https://www.hikari-pharm.co.jp/hikari/medical</a>

本 IF は 2022 年 7 月改訂の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ <https://www.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

## IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

### 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、（独）医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ（<http://www.info.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

### 2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

#### [IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

#### [IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「IF 記載要領 2008」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

#### [IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

### 3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

# 目次

<b>I. 概要に関する項目</b> .....	<b>1</b>
1. 開発の経緯 .....	1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性 .....	1
<b>II. 名称に関する項目</b> .....	<b>2</b>
1. 販売名 .....	2
2. 一般名 .....	2
3. 構造式又は示性式 .....	2
4. 分子式及び分子量 .....	2
5. 化学名（命名法） .....	2
6. 慣用名、別名、略号、記号番号 .....	2
7. CAS登録番号 .....	2
<b>III. 有効成分に関する項目</b> .....	<b>3</b>
1. 物理化学的性質 .....	3
2. 有効成分の各種条件下における安定性 .....	3
3. 有効成分の確認試験法 .....	3
4. 有効成分の定量法 .....	3
<b>IV. 製剤に関する項目</b> .....	<b>4</b>
1. 剤形 .....	4
2. 製剤の組成 .....	4
3. 注射剤の調製法 .....	5
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意 .....	5
5. 製剤の各種条件下における安定性 .....	5
6. 溶解後の安定性 .....	5
7. 他剤との配合変化（物理化学的変化） .....	5
8. 生物学的試験法 .....	5
9. 製剤中の有効成分の確認試験法 .....	5
10. 製剤中の有効成分の定量法 .....	5
11. 力価 .....	5
12. 混入する可能性のある夾雑物 .....	5
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報.....	5
14. その他 .....	5
<b>V. 治療に関する項目</b> .....	<b>6</b>
1. 効能又は効果 .....	6
2. 用法及び用量 .....	6
3. 臨床成績 .....	6
<b>VI. 薬効薬理に関する項目</b> .....	<b>7</b>
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群 .....	7
2. 薬理作用 .....	7

<b>VII. 薬物動態に関する項目</b> .....	<b>8</b>
1. 血中濃度の推移・測定法 .....	8
2. 薬物速度論的パラメータ .....	8
3. 吸 収 .....	8
4. 分 布 .....	9
5. 代 謝 .....	9
6. 排 泄 .....	9
7. トランスポーターに関する情報 .....	9
8. 透析等による除去率 .....	9
<b>VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目</b> .....	<b>10</b>
1. 警告内容とその理由 .....	10
2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） .....	10
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由.....	10
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由.....	10
5. 慎重投与内容とその理由 .....	11
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法 .....	12
7. 相互作用 .....	13
8. 副作用 .....	14
9. 高齢者への投与 .....	17
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 .....	17
11. 小児等への投与 .....	17
12. 臨床検査結果に及ぼす影響 .....	17
13. 過量投与 .....	17
14. 適用上の注意 .....	18
15. その他の注意 .....	18
16. その他 .....	18
<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b> .....	<b>19</b>
1. 薬理試験 .....	19
2. 毒性試験 .....	19

<b>X. 管理的事項に関する項目</b> .....	<b>20</b>
1. 規制区分 .....	20
2. 有効期間又は使用期限 .....	20
3. 貯法・保存条件 .....	20
4. 薬剤取扱い上の注意点 .....	20
5. 承認条件等 .....	20
6. 包 装 .....	20
7. 容器の材質 .....	20
8. 同一成分・同効薬 .....	20
9. 国際誕生年月日 .....	20
10. 製造販売承認年月日及び承認番号 .....	20
11. 薬価基準収載年月日 .....	20
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容.....	20
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容.....	21
14. 再審査期間 .....	21
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報 .....	21
16. 各種コード .....	21
17. 保険給付上の注意 .....	21
<b>XI. 文 献</b> .....	<b>22</b>
1. 引用文献 .....	22
2. その他の参考文献 .....	22
<b>XII. 参考資料</b> .....	<b>23</b>
1. 主な外国での発売状況 .....	23
2. 海外における臨床支援情報 .....	23
<b>XIII. 備 考</b> .....	<b>24</b>
その他の関連資料 .....	24

## I. 概要に関する項目

---

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| 1. 開発の経緯              | イオヘキソール 300 注 10mL 「HK」は、後発医薬品として開発し、2010年7月に承認を取得、2010年11月に上市した。 |
| 2. 製品の治療学的・<br>製剤学的特性 | 該当資料なし  |

## II. 名称に関する項目

1. 販売名	
(1) 和名	イオヘキソール 300 注 10mL 「HK」
(2) 洋名	IOHEXOL 300 INJ. 10mL “HK”
(3) 名称の由来	該当資料なし
2. 一般名	
(1) 和名 (命名法)	イオヘキソール (JAN)
(2) 洋名 (命名法)	Iohecol (JAN、INN)
(3) ステム	io-
3. 構造式又は示性式	<p>並びにそのC*位及びC**位の エピマー並びに鏡像異性体</p>
4. 分子式及び分子量	分子式 : C <sub>19</sub> H <sub>26</sub> I <sub>3</sub> N <sub>3</sub> O <sub>9</sub> 分子量 : 821.14
5. 化学名 (命名法)	5-{Acetyl[(2 <i>RS</i> )-2,3-dihydroxypropyl]amino}- <i>N,N</i> -bis[(2 <i>RS</i> )-2,3-dihydroxypropyl]-2,4,6-triiodobenzene-1,3-dicarboxamide 5-{Acetyl[(2 <i>RS</i> )-2,3-dihydroxypropyl]amino}- <i>N</i> -[(2 <i>RS</i> )-2,3-dihydroxypropyl]- <i>N</i> -[(2 <i>SR</i> )-2,3-dihydroxypropyl]-2,4,6-triiodobenzene-1,3-dicarboxamide 5-{Acetyl[(2 <i>RS</i> )-2,3-dihydroxypropyl]amino}- <i>N,N</i> -bis[(2 <i>SR</i> )-2,3-dihydroxypropyl]-2,4,6-triiodobenzene-1,3-dicarboxamide
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	なし
7. CAS 登録番号	66108-95-0



### Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質	
(1) 外観・性状	本品は白色の粉末である。
(2) 溶解性	本品は水に極めて溶けやすく、メタノールに溶けやすく、エタノール (99.5) にやや溶けにくい。 本品は水酸化ナトリウム溶液 (1→20) に溶ける。
(3) 吸湿性	該当資料なし
(4) 融点 (分解点)、 沸点、凝固点	該当資料なし
(5) 酸塩基解離定数	該当資料なし
(6) 分配係数	該当資料なし
(7) その他の 主な示性値	旋光度：本品の水溶液 (1→20) は旋光性を示さない。
2. 有効成分の各種条件下 における安定性	該当資料なし
3. 有効成分の確認試験法	日局「イオヘキソール」の確認試験による。
4. 有効成分の定量法	日局「イオヘキソール」の定量法による。

## IV. 製剤に関する項目

### 1. 剤形

(1) 剤形の区別、規格及び性状

剤形：注射液（溶液）

規格：1mL 中イオヘキソール 647.1mg（ヨードとして 300mg）含有

容器：ガラスバイアル

性状：無色澄明の液である。

(2) 溶液及び溶解時の pH、浸透圧比、粘度、比重、安定な pH 域等

項目		イオヘキソール 300 注 10mL 「HK」
pH	規格値	6.8～7.7
浸透圧比*	規格値	2.1～2.6
粘稠度 (37℃) (mPa・s)	実測値	約 6
比重 (37℃)	実測値	約 1.3

※生理食塩液に対する比（本剤を 2.5 倍希釈して測定し、希釈倍数を乗じて求めた。）

(3) 注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類

該当しない

### 2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

「IV-1. (1) 剤形の区別、規格及び性状」の項参照

(2) 添加物

項目	イオヘキソール 300 注 10mL 「HK」
内容量 (mL)	10
緩衝剤： トロメタモール (mg)	12.1
安定剤： エデト酸カルシウムナトリウム水和物 (mg)	1
pH 調整剤 (塩酸、水酸化ナトリウム)	適量

(3) 電解質の濃度

該当しない

(4) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

(5) その他

該当資料なし

3. 注射剤の調製法	該当しない														
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	該当しない														
5. 製剤の各種条件下における安定性	<p>加速試験<sup>1)</sup></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">保存条件</th> <th rowspan="2">容器</th> <th rowspan="2">試験項目</th> <th rowspan="2">保存期間</th> <th rowspan="2">結果</th> </tr> <tr> <th>温度</th> <th>湿度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40℃</td> <td>—</td> <td>ガラスバイアル</td> <td>性状、確認試験、pH、浸透圧比、純度試験、発熱性物質試験、不溶性異物検査、不溶性微粒子試験、無菌試験、定量</td> <td>6 ヶ月</td> <td>変化なし</td> </tr> </tbody> </table>	保存条件		容器	試験項目	保存期間	結果	温度	湿度	40℃	—	ガラスバイアル	性状、確認試験、pH、浸透圧比、純度試験、発熱性物質試験、不溶性異物検査、不溶性微粒子試験、無菌試験、定量	6 ヶ月	変化なし
保存条件		容器	試験項目					保存期間	結果						
温度	湿度														
40℃	—	ガラスバイアル	性状、確認試験、pH、浸透圧比、純度試験、発熱性物質試験、不溶性異物検査、不溶性微粒子試験、無菌試験、定量	6 ヶ月	変化なし										
6. 溶解後の安定性	該当しない														
7. 他剤との配合変化 (物理化学的変化)	通常、本剤は他剤と配合して用いることは好ましくない。														
8. 生物学的試験法	該当しない														
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	日局「イオヘキソール注射液」の確認試験による。														
10. 製剤中の有効成分の定量法	日局「イオヘキソール注射液」の定量法による。														
11. カ 価	該当しない														
12. 混入する可能性のある夾雑物	該当資料なし														
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	該当資料なし														
14. その他	該当資料なし														

## V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果	コンピューター断層撮影による脊髓造影、頸部脊髓撮影									
2. 用法及び用量	通常成人1回、撮影の種類、穿刺部位に応じて下記の量を使用する。 なお、年齢、体重、撮影部位の大きさにより適宜増減する。 [ ( ) 内はヨード含有量を示す]									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>撮影の種類</th> <th>穿刺部位</th> <th>用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンピューター断層撮影による 脊髓造影</td> <td>腰椎</td> <td>8~10mL (2,400~3,000mg)</td> </tr> <tr> <td>頸部脊髓撮影</td> <td>腰椎</td> <td>8~10mL (2,400~3,000mg)</td> </tr> </tbody> </table>	撮影の種類	穿刺部位	用量	コンピューター断層撮影による 脊髓造影	腰椎	8~10mL (2,400~3,000mg)	頸部脊髓撮影	腰椎	8~10mL (2,400~3,000mg)
撮影の種類	穿刺部位	用量								
コンピューター断層撮影による 脊髓造影	腰椎	8~10mL (2,400~3,000mg)								
頸部脊髓撮影	腰椎	8~10mL (2,400~3,000mg)								
3. 臨床成績										
(1) 臨床データ パッケージ	該当資料なし									
(2) 臨床効果	該当資料なし									
(3) 臨床薬理試験	該当資料なし									
(4) 探索的試験	該当資料なし									
(5) 検証的試験										
1) 無作為化並行 用量反応試験	該当資料なし									
2) 比較試験	該当資料なし									
3) 安全性試験	該当資料なし									
4) 患者・ 病態別試験	該当資料なし									
(6) 治療的使用										
1) 使用成績調査・ 特定使用成績調査 (特別調査)・ 製造販売後臨床 試験(市販後臨床 試験)	該当資料なし									
2) 承認条件として 実施予定の内容 又は実施した 試験の概要	該当しない									

## VI. 薬効薬理に関する項目

---

1. 薬理的に関連ある 化合物又は化合物群	トリヨード芳香環を基本構造とする非イオン性低浸透圧性造影剤 イオパミドール、イオベルソール、イオメプロール、 イオプロミド、イオキシラン
2. 薬理作用	
(1) 作用部位・ 作用機序	ヨードにより X 線吸収率を向上させ、X 線診断能を上げている。 <sup>2)</sup>
(2) 薬効を裏付ける 試験成績	該当資料なし
(3) 作用発現時間・ 持続時間	該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法	
(1) 治療上有効な血中濃度	該当しない
(2) 最高血中濃度到達時間	
(3) 臨床試験で確認された血中濃度	該当資料なし
(4) 中毒域	該当資料なし
(5) 食事・併用薬の影響	該当資料なし
(6) ポピュレーション解析により判明した薬物体内動態変動要因	該当資料なし
2. 薬物速度論的パラメータ	
(1) 解析方法	該当資料なし
(2) 吸収速度定数	該当しない
(3) バイオアベイラビリティ	該当しない
(4) 消失速度定数	該当しない
(5) クリアランス	該当しない
(6) 分布容積	該当しない
(7) 血漿蛋白結合率	該当資料なし
3. 吸収	該当しない

<b>4. 分 布</b>	
(1) 血液－ 脳関門通過性	該当資料なし
(2) 血液－ 胎盤関門通過性	該当資料なし
(3) 乳汁への移行性	該当資料なし
(4) 髄液への移行性	該当資料なし
(5) その他の組織への 移行性	該当資料なし
<b>5. 代 謝</b>	
(1) 代謝部位及び 代謝経路	該当資料なし
(2) 代謝に関与する 酵素（CYP450 等） の分子種	該当資料なし
(3) 初回通過効果の 有無及びその割合	該当資料なし
(4) 代謝物の活性の 有無及び比率	該当資料なし
(5) 活性代謝物の 速度論的 パラメータ	該当資料なし
<b>6. 排 泄</b>	
(1) 排泄部位及び経路	主として腎臓
(2) 排泄率	該当資料なし
(3) 排泄速度	該当資料なし
<b>7. トランスポーターに関 する情報</b>	該当資料なし
<b>8. 透析等による除去率</b>	該当資料なし

## VII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

2. 禁忌内容とその理由  
(原則禁忌を含む)

【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

1. 既往歴を含め、痙攣、てんかん及びその素質がある患者
2. ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者
3. 重篤な甲状腺疾患のある患者 [ヨードが甲状腺に集積し、症状が悪化するおそれがある。]

【原則禁忌】（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）

1. 一般状態の極度に悪い患者
2. 気管支喘息のある患者 [喘息発作を誘発するおそれがある。]
3. 重篤な心障害のある患者 [本剤投与により、血圧低下、不整脈、頻脈等の報告があり、重篤な心障害患者においては症状が悪化するおそれがある。]
4. 重篤な肝障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]
5. 重篤な腎障害（無尿等）のある患者 [本剤の主たる排泄経路は腎臓であり、腎機能低下患者では排泄遅延から急性腎障害等、症状が悪化するおそれがある。]
6. マクログロブリン血症の患者 [類薬において静脈性胆嚢造影で血液のゼラチン様変化をきたし、死亡したとの報告がある。]
7. 多発性骨髄腫の患者 [多発性骨髄腫の患者で特に脱水症状のある場合、腎不全（無尿等）があらわれるおそれがある。]
8. テタニーのある患者 [血中カルシウムの低下により、症状が悪化するおそれがある。]
9. 褐色細胞腫の患者及びその疑いのある患者 [刺激によりカテコールアミンを分泌し血圧上昇発作があらわれるおそれがある。]

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない



5. 慎重投与内容とその理由

(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギーを起しやすいつ体質を有する患者
- 2) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- 3) 脱水症状のある患者 [急性腎障害があらわれるおそれがある。]
- 4) 高血圧症の患者 [血圧上昇等、症状が悪化するおそれがある。]
- 5) 動脈硬化のある患者 [心・循環器系に影響を及ぼすことがある。]
- 6) 糖尿病の患者 [急性腎障害があらわれるおそれがある。]
- 7) 甲状腺疾患のある患者 [ヨードが甲状腺に集積し、症状が悪化するおそれがある。]
- 8) アルコール中毒患者 [検査中に禁断症状として痙攣発作(アルコール性てんかん)があらわれるおそれがある。]
- 9) 慢性呼吸器系疾患のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]
- 10) 急性膵炎の患者 [症状が悪化するおそれがある (「VIII-6.重要な基本的注意とその理由及び処置方法」の項参照)。]
- 11) 高齢者 (「VIII-9.高齢者への投与」の項参照)
- 12) 幼・小児 (「VIII-11.小児等への投与」の項参照)

6. 重要な基本的注意と  
その理由及び  
処置方法

- 1) ショック等の発現に備え、十分な問診を行うこと。
- 2) 投与量と投与方法の如何にかかわらず過敏反応があらわれることがある。本剤によるショック等の重篤な副作用は、ヨード過敏反応によるものとは限らず、それを確実に予知できる方法はないので、投与に際しては必ず救急処置の準備を行うこと。
- 3) 投与にあたっては、開始時より患者の状態を観察しながら、過敏反応の発現に注意し、慎重に投与すること。また、異常が認められた場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) 遅発性副作用に備えて、検査終了数時間後にも遅発性の副作用の発現の可能性のあることを患者に説明した上で、発疹、発熱、悪心、めまい、胸内苦悶感等の副作用と思われる症状があらわれた場合には、速やかに主治医等に連絡するように注意を与えること。
- 5) 抗痙攣薬投与中の患者は、この投与を継続すること。もし痙攣発作があらわれた場合には、フェノバルビタール等バルビツール酸誘導体又はジアゼパム等を投与すること。
- 6) 大量の本剤が頭蓋内に流入した場合には、痙攣発作があらわれるおそれがあるので、フェノバルビタール等バルビツール酸誘導体又はジアゼパム等を24～48時間経口投与すること。
- 7) 検査終了後は、副作用を防止するために患者を数分間坐位（垂直位）にさせることにより、造影剤をできるだけ腰部に移動させること。また検査終了後8時間は患者の頭部を10～15度挙上し、以後も16時間は安静にしておくこと。
- 8) ヨード造影剤の投与により腎機能の低下があらわれるおそれがあるので、適切な水分補給を行うこと。特に急性膀胱炎の患者においては、本剤投与前後にはガイドライン等を参考にして十分な輸液を行うこと。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌と  
その理由

該当資料なし

(2) 併用注意と  
その理由

(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ビグアナイド系 糖尿病用薬（メ トホルミン塩酸 塩、ブホルミン 塩酸塩等）	乳酸アシドーシスがあらわれ ることがある。 本剤を使用する場合には、ビ グアナイド系糖尿病用薬の投 与を一時的に中止するなど適 切な処置を行う。	ヨード造影剤の投与 後に腎機能低下があ らわれた場合、ビグア ナイド系糖尿病用薬 の腎排泄が減少し、血 中濃度が上昇すると 考えられている。
フェノチアジン 系薬剤等の抗精 神病薬	併用により、痙攣発作発現の 可能性が増大するとの報告が あるので注意し、少なくとも 検査 48 時間前から検査後 12 時間は抗精神病薬の投与を中 止する。 痙攣発作が発現した場合には、 フェノバルビタール等バ ルビツール酸誘導体又はジア ゼパム等を投与する。	併用により、痙攣閾値 を低下させると考え られている。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施してい  
ない。

(2) 重大な副作用と  
初期症状

(頻度不明)

- ① ショック：ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、必  
要に応じ適切な処置を行うこと。また、軽度の過敏症状も重篤な症状  
に進展する場合があるので、観察を十分に行うこと。
- ② 痙攣発作：痙攣発作があらわれることがあるので、このような場合に  
はフェノバルビタール等バルビツール酸誘導体又はジアゼパム等を投  
与すること。
- ③ アナフィラキシー：アナフィラキシー（呼吸困難、咽・喉頭浮腫等）  
があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な  
処置を行うこと。
- ④ 麻痺、髄膜炎：麻痺、髄膜炎等があらわれることがあるので、観察を  
十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。
- ⑤ アレルギー反応に伴う急性冠症候群：アレルギー反応に伴う急性冠症  
候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適  
切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

下記の副作用があらわれることがあるので、異常が認められた場合には必要に応じ適切な処置を行うこと。

	頻 度 不 明
精神神経系	頭痛、発熱（37～38℃）、知覚異常、反射亢進、めまい
消化器	悪心、嘔吐
循環器	血圧低下
過敏症	発疹
内分泌系	甲状腺機能低下症
その他	背部痛、発汗

(4) 項目別副作用発現  
頻度及び臨床  
検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、  
重症度及び手術の  
有無等背景別の  
副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに  
対する注意及び  
試験法

**【警告】**

ショック等の重篤な副作用があらわれることがある。

**【禁忌】**（次の患者には投与しないこと）

1. ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者

**【原則禁忌】**（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）

2. 気管支喘息のある患者 [喘息発作を誘発するおそれがある。]

**【使用上の注意】**

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 1) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギーを起しやすい体質を有する患者
- 2) 薬物過敏症の既往歴のある患者

2. 重要な基本的注意

- 1) ショック等の発現に備え、十分な問診を行うこと。
- 2) 投与量と投与方法の如くにかかわらず過敏反応があらわれることがある。本剤によるショック等の重篤な副作用は、ヨード過敏反応によるものとは限らず、それを確実に予知できる方法はないので、投与に際しては必ず救急処置の準備を行うこと。
- 3) 投与にあたっては、開始時より患者の状態を観察しながら、過敏反応の発現に注意し、慎重に投与すること。また、異常が認められた場合には、ただちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) 遅発性副作用に備えて、検査終了数時間後にも遅発性の副作用の発現の可能性のあることを患者に説明した上で、発疹、発熱、悪心、めまい、胸内苦悶感等の副作用と思われる症状があらわれた場合には、速やかに主治医等に連絡するように注意を与えること。

4. 副作用

- 1) 重大な副作用（頻度不明）

- ①ショック：ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。また、軽度の過敏症状も重篤な症状に進展する可能性があるため、観察を十分に行うこと。
- ③アナフィラキシー：アナフィラキシー（呼吸困難、咽・喉頭浮腫等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。
- ⑤アレルギー反応に伴う急性冠症候群：アレルギー反応に伴う急性冠症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。

- 2) その他の副作用

下記の副作用があらわれることがあるので、異常が認められた場合には必要に応じ適切な処置を行うこと。

	頻 度 不 明
過 敏 症	発疹

9. 高齢者への投与	<p>一般に高齢者では生理機能が低下しているので患者の状態を十分に観察しながら慎重に投与すること。</p>
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、診断上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。また、本剤投与の際にはX線照射をとまなう。]</li> <li>2) 授乳中の婦人には投与後48時間は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット静脈内投与)で乳汁中に移行することが報告されている。]</li> </ol>
11. 小児等への投与	<p>低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない。]</p>
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	<p>本剤投与により、甲状腺機能検査等の放射性ヨードによる検査に影響を及ぼすことがある。したがって、これらの検査は本剤投与前に実施すること。また、本剤投与後1か月間はこれらの検査を実施しないこと。</p>
13. 過量投与	<p>該当資料なし</p>

14. 適用上の注意

1) 投与経路

尿路、CT又は血管用のイオヘキソール製剤を脳槽あるいは脊髄撮影に使用しないこと。イオヘキソールは製剤により効能・効果、また撮影の種類により用法・用量が異なるので注意すること。

2) 前処置

- ① 投与前に体温まで温めること。
- ② 嘔吐をできるだけ回避するため患者を空腹状態にしておくこと。ただし水分制限をしないこと。

3) 投与时

- ① 1回の検査(クモ膜下)には総ヨード量3,000mg以下とすること。
- ② 本剤の注入量より多量の脊髄液を除去しないこと。
- ③ 他の薬剤との混注はしないこと。
- ④ 注入装置の洗浄が不十分な場合には、注入器内部に付着する残存液に由来する銅イオン溶出等によって、生成物を生じるおそれがあるので、使い捨て以外の器具を用いる場合には内部の汚れに注意し、洗浄、滅菌を十分に行うこと。

4) 投与後

- ① 投与後も水分補給を行い、造影剤の速やかな排泄を促すこと。
- ② 再検査は5～7日の期間をおくこと。

5) 開封後

開封後は速やかに使用すること。

15. その他の注意

該当資料なし

16. その他

該当資料なし

## IX. 非臨床試験に関する項目

### 1. 薬理試験

- (1) 薬効薬理試験 該当資料なし
- (2) 副次的薬理試験 該当資料なし
- (3) 安全性薬理試験 該当資料なし
- (4) その他の薬理試験 該当資料なし

### 2. 毒性試験

- (1) 単回投与毒性試験

LD<sub>50</sub> 値<sup>3)</sup>

投与経路	単位	マウス		ラット	
		雄	雌	雄	雌
静脈内	gI/kg	24.3	25.1	15.0	12.3

- (2) 反復投与毒性試験 該当しない
- (3) 生殖発生毒性試験 該当資料なし
- (4) その他の特殊毒性 該当資料なし



## X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分	製 剤：処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること 有効成分：該当しない
2. 有効期間又は使用期限	使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）
3. 貯法・保存条件	室温保存
4. 薬剤取扱い上の注意点	
(1) 薬局での取り扱い上の留意点について	「VIII-14. 適用上の注意」を参照すること。
(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）	「VIII-14. 適用上の注意」を参照すること。
(3) 調剤時の留意点について	「VIII-14. 適用上の注意」を参照すること。
5. 承認条件等	該当しない
6. 包 装	10mL×5瓶（ガラスバイアル）
7. 容器の材質	バイアル：ガラス、ゴム栓：ブチルゴム
8. 同一成分・同効薬	同一成分薬：オムニパーク 300 注 10mL（GEヘルスケアファーマ） 同 効 薬：イソビスト注 240（バイエル薬品） 先発医薬品名：オムニパーク 300 注 10mL（GEヘルスケアファーマ）
9. 国際誕生年月日	1978年
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	製造販売承認年月日：2010年7月15日 承認番号：22200AMX00760
11. 薬価基準収載年月日	2010年11月19日
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	該当しない

13. 再審査結果、再評価  
結果公表年月日及び  
その内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に  
関する情報

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT(9桁) 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト 電算コード
イオヘキソール 300 注 10mL「HK」	120271701	7219415A8051	622027101

17. 保険給付上の注意

該当しない

## XI . 文 献

---

- |             |  |
|-------------|--|
| 1. 引用文献     | 1) 光製薬株式会社：安定性試験に関する資料（社内資料）<br>2) 第十八改正日本薬局方解説書，廣川書店，東京，C-528（2021）<br>3) THE MERCK INDEX 13th ed., 908（2001） |
| 2. その他の参考文献 | 該当資料なし   |

## XII. 参考資料

---

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 1. 主な外国での発売状況       | 該当資料なし |
| 2. 海外における<br>臨床支援情報 | 該当資料なし |

## XIII. 備 考

---

その他の関連資料

該当資料なし